

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		キッズルーム ライチ		公表日 令和8年 1月 30日		
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	<input type="radio"/>		状況に応じて1F、2Fに分かれて活動を実施している。	個室もあるが主にワンフロアのため活動に集中しにくい面がある。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	<input type="radio"/>		人員配置は適切に満たしている。	今後も職員の数現状を維持出来るよう努めていきたい。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	<input type="radio"/>		状況に応じて1F、2Fに分かれて活動を実施、施設内でトランシーバーを使用して適宜連携を取れるよう準備している。	整理整頓のために物品の場所を固定したりそのイラスト・写真を貼ったりすることで、利用児自身が片付けやすい環境設定を行っていくことが必要。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	<input type="radio"/>		活動の中で清掃を行う時間を設定、適宜換気を行ったり感染対策を行っている。	トイレや水回りの汚れが気になり、適宜清掃を行っていくことが必要。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	<input type="radio"/>		1Fにある個室や食堂を状況に応じて使えるような設定にしている。	部屋の数に限りがあるため、複数人が同時に同一の部屋を使用することが困難となっている。時間で区別する等工夫が必要。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	<input type="radio"/>		業務内容で変更等ある際はすぐにスタッフ間で共有、事業所の目標を全体で共有しながら日々業務に当たっている。	実施するイベント・活動の企画時にパートスタッフが参加出来ないことが多く、一緒に検討していけるようなスケジュールを組んでいく必要がある。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	<input type="radio"/>		保護者から意見等ある際は全体で共有し、改善出来る部分はすぐに対応できるようにしている。	日頃から保護者等の意向を聞き取りやすい環境、関係作りを行っていく必要がある。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	<input type="radio"/>		日々のミーティングや活動予定の話し合いの中で出た意見を実際に取り入れられるようにしている。	パート勤務の方が出勤する前に話し合い等を行っているため、実施する時間を合わせて行っていきたい。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		<input type="radio"/>	評価結果をもとに事業所内で話し合い、業務改善を行えるよう努めていきたい。	第三者による外部評価を行えるようにしていきたい。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	<input type="radio"/>		研修実施日に参加出来ないスタッフに対しては研修資料の配布、実際に研修を受講したスタッフからの情報提供も行っている。	各スタッフから意見を募り、実施する研修に活かすことの出来る流れを作っていく。
適切な支	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	<input type="radio"/>		前回公開している支援プログラムをもとに実際にあった支援プログラムを作成している。	既にある支援プログラムが絶対ではなく、必要に応じより良いプログラムの立案を進めていきたい。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	<input type="radio"/>		保護者との面談を通し、利用児の現状にあった計画の作成を行っている。	利用児のニーズを支援の中で拾い上げていく必要を感じ、日々の会話の中で情報収集を行っていく。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	<input type="radio"/>		計画作成のタイミングで支援会議を行ったり、日頃の様子を各スタッフに聞き取ったりし、計画書に反映させている。	利用児の願いや思いを正確に把握出来るよう、家族との面談時にも確認を行っていく必要がある。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	<input type="radio"/>		計画作成時、また変更時には全スタッフに情報共有を行い、支援記録を書く度にも確認を行っている。	パート勤務の方に対しても計画書を見せながら現状の課題等について伝えられる時間を適宜確保していく必要がある。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	<input type="radio"/>		5領域に対応したアセスメント表を用い、現状の課題整理を行っている。	今後も適切にアセスメント表を活用し、結果を職員に周知していきたい。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	<input type="radio"/>		それぞれの学年や年齢に応じた支援内容を設定しており、その先を見通しながら必要な支援内容も設定している。	事業所、家族間で同じ方向を見ながら支援を行っていけるよう、日々支援に関する話しを行っていく必要がある。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	<input type="radio"/>		スタッフそれぞれ意見を出し合い、全体で活動プログラムの立案を進めている。	活動プログラム立案の話し合いの前にパート勤務の方から意見を集約していく必要がある。

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		季節のイベント、製作活動、毎月行うレクリエーションで実施内容が被らないよう、また新鮮味のある活動の提供を意識し実施している。	他事業所で実施している活動プログラム等の情報収集を行い、現状に合うものがあれば取り入れたりしていく。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		利用児が無理なく楽しく過ごせるよう、個々での活動、小集団での活動、状況に合わせたSST等を実施している。	それぞれの特性に合わせ活動を企画しているが、その時々で実施が難しい場面もあり、そのような際に対応を検討していく必要がある。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		サービス提供の前には必ず送迎や活動の確認、時間帯による役割分担を決めて支援を行っている。	長期休暇（夏休み・冬休み・春休み等）中は支援開始前の打ち合わせが難しく、事前に全日の予定の打ち合わせを行っておく必要がある。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		利用児の様子で気になることがあればその都度口頭、もしくは紙に記録を行い、スタッフ間で情報共有を行っている。	支援終了後の話しが長引いてしまうことがあるため、その場で必要な振り返りのみで終わられるよう工夫が必要。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		利用児毎に特に気になる行動・言動等が見られた際は記録に残し、それらの見られた前後での様子を比較している。	日々の支援記録は必ずとっているが、それぞれが意識しないと振り返りに繋がらないため、習慣化出来るよう声かけが必要。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		個別支援計画の更新のタイミングで必ずモニタリングを行い、必要に応じて目標の変更等を行っている。	計画の見直しの際、いろいろなスタッフの視点からの意見も取り入れていく必要がある。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	○		様々なレクリエーション、イベント、日々の活動の中で複数が組み合わせるような支援を提供している。	支援方法が偏らないよう、いろいろな活動の企画をしていく必要がある。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		利用児が希望する遊び・活動等あれば自らスタッフに伝えたり、それらに必要な物品等を自ら伝えられるよう日々支援を行っている。	その時々状況により、それぞれの希望する活動が行えない場面もあるため、スタッフの配置や人数を場面に合わせ調整していく必要がある。
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		会議等実施時には管理者、児童発達支援管理責任者、対象の児童をよく理解しているスタッフが参加出来るよう配慮している。	全スタッフが同じレベルで個々の把握を出来ている状況を作れるようにしていきたい。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		必要に応じて連携のとれる体制を整えている。	教育機関との連携は今以上に強化していく必要性を感じている。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		学校での送迎時に当日の様子を確認、事業所についてからすぐに他スタッフと情報共有を行っている。	送迎場面では短時間での確認となるため、現状よりも更に情報共有できる関係性作りを行っていく必要がある。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		新規の利用児がいる場合、以前に利用していたサービスの状況、また相談支援専門員からの情報収集を適宜行っている。	保育所等からの聞き取りは行っていないため、必要に応じ情報共有を行ってきたい。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○		必要に応じ移行支援会議の実施、参加を行っている。	小学校卒業時で利用終了する方に対しては会議等行っておらず、必要に応じ情報提供等をするのみにとどまっている。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○		会社全体での研修等でスーパーバイズ、助言を受ける機会がある。	研修等なくとも必要に応じて連携をとれる関係性を構築していきたい。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○		他事業所（放課後等デイサービス）との合同でのイベントを実施している。	障害福祉サービス事業所との交流はあるが、それ以外での交流の機会を持っておらず、今後検討していく。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○		協議会等あれば積極的に参加している。	今後も引き続き参加を行い、その中で他事業所間の繋がりを持てるよう努めていきたい。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		送迎時には当日の様子、最近の様子等を都度伝える等、情報共有を図っている。	話す内容により別途時間を取って面談を行えるよう進めていきたい。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		スタッフがペアレント・トレーニングの研修へ参加しており、今後事業所でも実施していきたいと考えている。	現状実施出来ておらず、今後実施を検討していった。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		契約時にしっかりと説明を行っている。気になること等あれば都度対応できる体制を整えていく。	利用開始後、家族や利用児の状況が変わった際には都度内容の振り返り、再説明を行ってきたい。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		サービス提供を行うにあたり、利用児や家族の意見を取り入れたり必要となる内容を取り入れている。	利用児のニーズの把握について、言語化することが難しい場面もあるため、日々の支援の中で時間をかけて把握していきたい。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○		個別支援計画作成時、計画書を見せながら内容の説明を行い同意を得ている。	利用児自身も目標や計画の内容を理解出来るよう、年齢に合わせて伝えていく必要性を感じる。

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		送迎時に話しを行う中で、時間をとって話しを行った方がよい場合は別途時間をとり面談等を行えるようにしている。	状況に応じ適切な助言が出来ない場合もあるため、今以上にスタッフ自身がスキルや知識を身に付けていく必要がある。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	○		今年度は保護者参加のイベントを実施、その中で保護者と事業所スタッフのみで話しを行える場面を設定している。	今後も定期的に保護者と一緒に取り組める活動や機会を提供できるよう検討していく。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		何かしら申し出があればすぐに対応を行っている。	今後も必要に応じ迅速な対応を行っていききたい。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		日々の活動、イベント実施時にサービス提供記録に写真をつけたり、玄関に活動のまとめを掲示したりしている。	口頭や掲示だけでなく、HUG（オンラインシステム）を用いた情報発信を今後も取り組んでいきたい。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		個人情報に関する注意は全体に行っており、掲示物の氏名等にも注意を払っている。	今後も細心の注意を払えるよう啓発しながらサービス提供を行っていく。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		口頭だけの説明ではなく、視覚支援を用いて情報提供を行っている。	個々の特性に合わせた対応を行っているが、不足している部分もあるため、意思疎通・情報伝達に対する配慮を今後も行っていく。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○	関係機関や訪問のあった方には挨拶がしっかり出来るよう声かけ等を行っている。	現状、地域住民を招待する等の活動は行えていない。今後実施を検討していきたい。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		毎月計画した訓練・研修を行っており、利用児も参加するものであれば家族へも実施報告を行っている。	今後も定期的に訓練を行い、実施状況について周知していきたい。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		様々な災害発生に備え、利用児と共に訓練を実施している。	定期的に見直しを行い、非常時に対応できる形を継続していきたい。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		利用開始前の契約時の面談にて利用児の状況を確認、必要に応じた対応を行っている。	今後も確認漏れがないよう、面談時に話しを行っていく。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		利用開始前の契約時の面談にて利用児の状況を確認、必要に応じた対応を行っている。	把握している情報を全スタッフに確実に周知することを継続していきたい。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		安全計画で定めたスケジュールで必要な研修・訓練を行っている。	今後も実施の漏れがないよう継続していきたい。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		訓練等実施した際は送迎時にその様子を伝え周知している。	日頃から心配なことがないか、家族から情報集めを行っていく。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		ヒヤリハットが生じた際はその情報をスタッフ全体に周知、その際の状況や対処、また再発防止に向けた取り組みについて検討している。	ヒヤリハットが起こりにくい環境設定を今後も継続していく。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		日々のサービス提供の内容を振り返ったり、必要な研修等を行っている。	外部の研修等ある際、管理者以外も参加できるように進めていきたい。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		日々の利用児の様子を振り返り、身体拘束に関する理解を深めている。 現状やむを得ず身体拘束を行う必要がある利用児はいないが、何が身体拘束にあたるのかは周知している。	スタッフそれぞれがサービス提供中のことを振り返る機会を持ち、適切な対応を行えるよう進めていきたい。	